

(議事概要)

第1回「飼い主のためのペットフード・ガイドライン」改訂に係る有識者ヒアリング

開催日時：平成30年4月24日(火) 15:00～17:00

開催場所：馬事畜産会館2階第5会議室

議事概要：

環境省より、「飼い主のためのペットフード・ガイドライン」は作成(平成21年10月)から、10年近くが経過し、その間にペットフードの表示に関する公正競争規約の改訂等も行われている。現状にそぐわない部分もあると思われることから、全面的な見直しを行いたい旨の挨拶が行われたのち、改訂方針に関する説明が行われた。その後、逐条的に検討を行った。

改訂に関して上げられた主な意見は以下のとおりである。

● 必要な栄養素の違い

「犬、猫、人間の平均的な食事に含まれる三大栄養素」として円グラフを示しているが、出典が不明確で、猫の炭水化物が多すぎるのではないかとの意見も聞いている。出典を明確にしてグラフを修正する必要がある。

必要な栄養素の量とフードに含まれる栄養素の量は異なっている。犬と猫の違いを示すには必要な栄養素の量で比較することがよりよいと思われるが、一律の円グラフとして示すことは難しいと思われる。

フード100kcalあたりに含まれるたん白質の量を示すことで、人と犬は似ているが、猫は異なっていることを示すことは可能と考えられる。また、ドライフードの場合であることを明確にする必要がある。

● フードの食べ方の違いと与え方

犬、猫共通の事項はまとめて記載した方が理解されやすい。

● 好きな食材・嫌いな食材

該当ページを見て好きなものとして掲載されている食材を与えたという飼い主もいたと聞いている。

犬が好きな食材として甘い食べ物や塩辛いものを示しているが、「味覚の違い」の項では、塩分や甘味のある食べ物の与えすぎを注意しており、若干の矛盾が感じられる。

好き嫌いではなく、与えるもの、与えないものの記載があれば、この部分は削除しても良いと思われる。

● 避けたい食材、注意が必要な食材

「与えることは避けたいもの」として示すと、与えても良いという印象を受けるので、「与えてはいけないもの」のみを示した方が良い。

ペット専用として市販されているもの（チーズ、ミネラルウォーター、にぼし、ミルク等）は、ペット専用のもので与えましょうという記載が必要と思われる。

生卵で「アビジンという酵素が」との記載があるが、アビジンは酵素ではなくビオチンと親和性の高い塩基性糖たん白質で、ビオチンと結合することでビオチン欠乏を生じさせるので、修正が必要。

レバーを食べることでビタミンDが過剰となる旨の記載があるが、レバーに含まれるビタミンDは、それほど多くないので修正が必要。

● 市販フードの種類と選び方

目的別の分類は、ペットフード公正取引協議会における最新の分類にあわせる。

サプリメント、犬種別製品、健康に訴求した製品等も販売されているので、このような目的の製品も販売されていることについて、どこかで触れておいた方が良いと思われる（Q&Aでも良いかもしれない）。

ライフステージ別の区分で、大型犬は15歳程度を上限と捉えても良いと思われるが、小型・中型犬、猫では、20歳を過ぎている例も少なからず見られるので、15歳できらない方が良い。

高齢期が細分化される傾向にあり、フードメーカーの間でも見解が分かれている。

● 表示の見方

ペットフード安全法で義務付けられている表示とペットフードの表示に関する公正競争規約で規定している表示が区別できるように修正する。

● 手作りフード

自分で考えず、人から聞いて手作りフードを与え続けているような飼い主が最も懸念される。どういうレシピかという点より、飼い主の姿勢が重要。

手作りフードでは、カルシウム（Ca）とリン（P）のバランスを取るだけでも大変。白米と肉を与えている場合等はCa不足が生じるが、不足するCaをサプリメント等の

添加で補う場合、逆に過剰添加になるケースもある。

食物繊維の不足が下痢の原因となる旨の記載があるが、可溶性繊維の取り過ぎも下痢の原因となるので、修正が必要。

- フードの保存方法

環境省作成「知って納得！ペットフードの表示」（リーフレット）の記載に統一した方が良い。

- 痩せすぎ、太りすぎにしないために

理想体重を知ることは重要であり、血統が明確な犬猫は良いが、雑種等になると理想体重を知ることも体が難しい。体重から必要カロリーを求め、フードに表示されている ME 量から与えるフードの量を求めることが重要なので、そのための計算式を示した方が良い。

欲しがらざる量のフードを与えるのではなく、はかり（ない場合は計量カップ）で量った上で適切な量のフードを与えることが重要であることを記載した方が良い。

BCS は 9 段階に区分しているものもある（文献あり）。どちらにしても、痩せすぎは理想体重の 70 % 以下、肥満は理想体重の 130 % 以上と考えて問題はないと思われる。

本格的なダイエットが必要な場合は、獣医師の指導の下で専用フードを用いて行うことが望ましい。

- 日頃の体調管理

食事に重点を置いた項目に書き換えるか、再度、検討する必要がある。

猫では、3 日間フードを食べなかった場合は、獣医師の診察を受けることが重要。

- こんなことにも気をつけましょう

観葉植物は、中毒原因として事例の多いものから順に掲載した方が良い。どの程度詳細な情報があるかは不明であるが、ペット用の保険を扱っている業者であれば、ある程度の情報を得られるのではないかと。

観葉植物以外の誤食による事故等も多いので、その旨も記載したほうが良い。

歯のケアのイラストでガーゼを指に巻いているイラストがあるが、これは、あくまでも口に指を入れることの練習が主目的なので、イラストを修正した方が良い。

ドライフード給与時の飲水量を示すことは、目安として分かりやすい。

体重当たりの飲水量は必要なカロリーを計算する際と同様の方法で算出可能である

が、一般の飼育主向けというより、獣医療の面で水を飲まなかった時の輸液量を決定する際に使用することが多いと思われる。

水も大切な栄養素であること、常にきれいな水を与えることが重要。

- Q&A

環境省で全般的な見直しを行い、その後、意見を伺う。

- その他

数値を示している部分については、出典等を明確にし、確認を行う。

参考資料を現状に合わせて更新する。また、地方環境事務所の連絡先の一覧を追加する。

本日の意見等を踏まえ、各委員に修正稿の作成を依頼。